

はつうま通信

2025年 10月20日 発行

はじめに

最近夕方暗くなるのがだいぶ早くなり、肌寒い日も増えてきました。山はまだあまり紅葉していないようですがすっかり秋の空気に代わっています。秋といえば色々な「～の秋」がありますが、留学センターで私はよく食欲の秋を感じています。先日は、もらってきたという大きなサツマイモを留学生が調理しているなーと見ていたら、スイートポテトを作っていました。一緒に夕食でいただき、ほくほくと甘く、秋を感じることができました。ほかにも栗なども地域の方にいただいてきて調理しているようです。

10・11月は留学センターもイベントが盛りだくさんで、留学生も忙しく充実した日々を過ごしています。10月25日には新そば祭りで太鼓の初披露があり、それに向けた練習にも熱が入っているようです。また11月15・16日には留学センターで収穫祭が行われます。この行事は留学生がこの半年の成果を発表すると共に、皆様に感謝の気持ちを伝えるものでもあります。村民の皆様には多くの方々に是非とも足を運んでいただきたく思っております。お待ちしております。

長岡 悟



稲刈りお疲れ！



楽しみにしてた
城端散策



夕食で箱膳体験

【活動日程】

- 9/20 竜口谷キャンプ
- 9/23 稲刈り
- 9/24 ホームステイ開始
- 10/3 センター活動開始
- 10/4 自由活動日
- 10/5 自由活動日
- 10/11 (前)城端散策
- 10/12 (前)自由活動日
- 10/13 脱穀

〒939-2516 富山県南砺市利賀村坂上 18
南砺利賀みらい留学センター
TEL : 0763-77-4103 / FAX : 0763-77-4037
MAIL : nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB : <http://www.nanto-toga.com/>

9/20 竜口谷キャンプ

竜口谷の河原で1泊2日のテント泊キャンプを行いました。キャンプ地に移動してテントの設営を行い、薪拾い、かまどを準備します。いざマッチを擦ろうとしたあたりで雨が降り始めました。火おこしに苦勞し、満足いく夕食にありつけたのは2名のみでした。

テントで眠り、翌朝。朝食も薪やマッチ、新聞紙が湿り、難易度が上がります。最初に受け取っていたマッチが尽き、「マッチ3本もらいます」と叫ぶ声が響き渡ります。温かな朝食を食べることが出来たのは1名のみ。今回のキャンプは悔しい結果になり、センターで反省会。自由活動日にリベンジの計画を立てている人もいました。



みらい留学農事歴

【田んぼ】9/23 稲刈り 10/13 脱穀

9月23日に稲刈りを行いました。この日は太陽の照り付けもあまりなく、まさに稲刈り日和と言った天気でした。最初に収穫祭でお供えするための稲を一人ひとり刈り取った後、本格的な刈り取り作業に入っていました。ある程度刈り取りが進んだところで、後期生と指導員で稲の結束作業、前期生はひたすら刈り続けるといった形で分担して作業していききました。今年は稲架を組んだ時に、昨年よりも多めに稲架を組んでいましたが、それでも掛けるところが足りず、急遽稲架棒を追加しました。

10月13日には脱穀を行いました。あいにくの天気となりましたが、何とか雨に濡れないように工夫して作業を行いました。今年度から、足踏み式脱穀機に加えて、千歯こきも加わり作業をしました。雨のため、唐箕の体験はできませんでしたが、脱穀機・千歯こき・ふるい掛けの作業を各グループでローテーションしながら進めていき、収穫量の4分の1程度を手作業で脱穀しました。残りの稲は、地域の方にコンバインをお借りして、脱穀と選別を行う予定です。今年はどれだけの収穫があるのか、楽しみです。



【畑】10/18 間引き(赤かぶ)

10月も、引き続き留学生が育てた野菜が食卓に上がりました。金剛祭で保護者が来園したときには、「これで、センターで育てたカボチャは最後だよ～」と厨房スタッフがカボチャを出してくれました。また、赤かぶの間引き菜は、郷土料理でもある「よごし」にして出してもらいました。雪が降るまであと少し。片付けがメインになる畑作業ですが、最後まで丁寧に取り組みたいと思います。





南砺市の城端地域を散策し、獅子舞共演会の見学に行きました。最初に桜が池で昼食を食べ、じょうはな座定期公演の鑑賞をしました。利賀とは異なるむぎや節を鑑賞し、実際に体験します。その後は散策の時間です。城端のおやつと街並み、獅子舞の練り歩きや獅子頭展を見て楽しみました。夕方になると共演会の見学です。留学生が出演している上村地区の獅子舞や同じ利賀の上百瀬地区の獅子舞、他地域の天狗の獅子舞などを見て楽しみました。昨年、上村地区で獅子取りをした留学生は「やっぱり上村の獅子舞いいよね。」と、自身が参加した獅子舞の魅力を改めて感じていました。

自由活動日の様子



留学生一人一人が、それぞれの興味関心や自分のやりたいことに対して自由に活動するのが自由活動日です。

10月に入ってから自由活動日では、お菓子作りに挑戦している留学生が多く見られました。春から自分で栽培していた赤紫蘇を練り込んだマカロンや、地域の方からいただいた南瓜や栗を使ったおやき、クッキーなどを作り、「みんなにも食べてもらいたい！」と週末のおやつとして振舞っていました。外では、火起こしに挑戦している留学生が目立ちます。全体活動キャンプでの失敗を糧に、「冬の雪中キャンプでは絶対に火が起こせるようにする！」と練習する姿が見られました。そのほか、工作や山の探検など、十人十色な活動に精いっぱい取り組んでいる週末の日々です。



みらい留学日記



二日間の自由活動日にはいろいろしましたが、そりを作ったことを紹介します。なぜそりを作ったかというと、遊び図鑑をパラパラと読んでいて、面白そうだなと思って作りました。伊良と作りました。ひもを掛ける場所も作り、竹を曲げてスキー板のようにした竹をつけました。そして、ストックのような竹を両脇につけて完成しました。冬が待ち遠しくてたまらないです。(10/5 さとし)

「天狗はいる！」※獅子舞共演会観覧後

僕は先日城端でとんでもないものをみた。それは天狗だ。天狗が獅子と戦っていたのだ。天狗が戦う時のメロディは僕がいままで聞いたこともない高いメロディでリズムカルで思わず「かけ〜」と見とれてしまった。あと「仮面ライダーの変身音にありそう」と思った。また、時々リズムがとてもはげしくなり接戦なのだと思った。坂上の次はぜひこれを映画化してほしいと思った。(10/12 ゆうせい)



10/10（金） 晴れ 気温：12℃ 【ノブドウ】※虫こぶ

- ・留学生が持ってきてくれた色づいたノブドウ。実を割ってみて中を観察、虫を発見！！
- ・虫こぶの名前の付け方は植物＋部位＋症状＋フシとなり、ノブドウはノブドウウミヒダイフシとなる。

保護者だより

舜が利賀で暮らし始めて、あっという間に半年が経ちました。

山村留学に興味を持ったのが昨年夏の初め。3人兄弟の末っ子の舜も、歳は離れているものの、兄たちと似たような進路をたどっていくのかなあと思っていた矢先の出来事でした。山村留学に関して全く知識がありませんでしたが、調べたり体験する度に舜の決意はどんどん強くなっていきました。そして、利賀村とのご縁をいただくことが出来、様々な方々に助けていただきながら、今、利賀ならではの生活を楽しめていることに、心から感謝しております。

センターや学校のHPで舜の姿や表情を見て、私たちが元気をもらったり励まされたりしています。

舜が散髪をして今までと違う髪型でHPに初登場した時は、家族の中で大きな話題になりました。

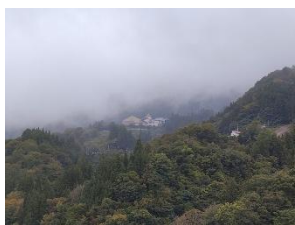
夏に帰省した時には、持ち帰ってきた水筒を自ら洗ったり、朝から私の代わりに父のお弁当を作ったり（残念ながら1週間程で終わってしまいましたが・・・）。それに、大阪万博。何度も一緒に行き色々教えはしましたが、利賀に帰る前に「どうしてももう一度行きたい！」と、1人で、電車を2回乗り継ぎ1時間半近くかかる万博まで行き、大人でもややこしいパビリオンの予約をし、自分のやりたいことをして楽しんできた舜を見て、さまざまな面で成長していることを実感せずにはいられませんでした。

これから、今まで生活してきた大阪とは全く違う、利賀の冬を、どう感じてどんな風に過ごすのか楽しみです。舜にはいろんな人と関わって、今しか出来ないことを思い切り満喫してほしいと願っています。引き続き、親子共々よろしくお願いいたします。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

指導員よもやま話

＝＝＝＝＝＝＝＝＝



ここ最近、涼しくなったのはよいものの、天気が安定しない日が多く、いざ時間を作って走りに行こうと思った時には雨に降られてしまいなかなか走りに行けていません。本来なら、

この時期が一番気持ちよく、ストレス解消にはもってこいなのですが、なかなか思い通りにはいかないモノです…(邑上)



今回の獅子舞共演会は上百瀬の笛で参加させていただきました。あまり良い天気ではなかったものの、秋の獅子は心なしかギリッと見える気がします。町なかで進む獅子にはまた違う味わいがある楽しい半日でした。(松浦)



念願の狩猟免許(わな・第一種銃)を取得した。猟銃の所持許可は現在進行中なので、今年はわな猟のみの狩猟者登録。憧れの狩猟の世界、知らないことだらけであるが、ベテラン揃いの利賀村で始められることが非常に嬉しい。猟友会の皆様、何卒よろしくお願いします。(山口)

最近、卓球やビーチバレーボール、バドミントンをする機会があった。バドミントン以外は経験者とは言えないが、楽しむことが出来た。同時に必要性を感じていなかった体育の授業の経験が生かされて驚いた。(高倉)